

2015年8月27日

株式会社エコクリーン江別  
代表取締役 上妻政敏 殿

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会  
委員長 押谷



## 評価報告書

日頃より江別市の廃棄物処理の中核を担う貴社の事業運営に対して江別市民を代表して感謝申し上げます。

さて、去る7月16日に第8回環境クリーンセンター等運営事業評価委員会を開催しました。

委員会では、貴職ならびに貴社担当者より平成26(2014)年度の事業内容について説明を受けました。それをもとに評価委員全員で貴社の事業に対する評価について協議を行い、総合的に評価した結果、平成26年度における貴社の運営事業については、全員一致で下記の通り評価いたしましたので、ご報告いたします。

環境クリーンセンターは、平成14(2002)年11月の竣工以来、12年目を迎えようとしているなか、貴社は江別市より長期包括的運営管理の委託を受けてから8年目に入りました。この間、重大な事故やトラブルは発生していません。しかしながら、経年的な劣化も懸念され、運転管理においては、従来にも増して慎重な対応が求められることと思います。とくに、環境クリーンセンターが市民からの貴重な税金によって建設され、運転されている重要な財産であることを踏まえ、常に慎重かつ適正に運転・管理していただくようお願いいたします。

2014年度においては、重大な事故や労災事故は、発生していないとのことですが、二系統ある処理システムのいずれかでも何らかのトラブルによって稼働できなくなれば、その影響は甚大です。そのような事態が発生しないように日頃から点検・整備に十分に取り組むことを重ねて強く求めます。

貴社の事業は、株式会社としての組織とはいえ利益の追求だけではなく、社会的な責任と公益性をもつ事業であることを貴職はじめ従業員一同ならびに関係会社も含めて十分に認識し、健全な経営はもろんのこと環境面においても安心安全の配慮を重視した事業の展開を行っていただくよう要望いたします。

## 記

評価結果：平成26(2014)年度の環境クリーンセンター等運営事業について、次の事項について説明を受け、評価を行いました。特段の問題はなく、総合的に適正であると評価します。

- 評価事項
1. 運転・維持管理について
  2. 環境保全について
  3. 事業経営について
  4. 環境整備および地域貢献について

(別紙)

## 環境クリーンセンター等運営事業評価委員会

### 委員等名簿

(敬称略)

	氏名	団体等
委員長	押谷 一	酪農学園大学
副委員長	星 優子	日本リサイクルネットワーク・えべつ
委員	辻 富美子	江別消費者協会
委員	池田 太郎	八幡自治会
委員	菊地 博章	江別建設業協会
オブザーバー	大久保 豊	三井造船㈱
オブザーバー	寺内 辰雄	クボタ環境サービス㈱

## I. 説明の概要

### 1. 運転・維持管理について

江別市の要求水準書に定められた業務を適正に実施するための組織について平成 26 年 7 月 1 日現在の「江別市環境クリーンセンター運転維持管理に係る組織体制」にもとづいて説明を受けた。

それによれば、上妻政敏代表取締役以下、廃棄物処理施設の運転に関わる技術管理者、ボイラータービン主任技術者、防火管理者など法令で定められ運転維持管理のために必要とされる有資格者が適正に配置されていること、職制によって勤務時間帯は異なるが、運転管理に十分な体制をとられていること等を確認した。

#### (1) ごみ搬入量

平成 26 年度は、昨年度に比べ、ごみ搬入量は、可燃ごみが 2.6%減、不燃・粗大ごみが 7.6%減となっている一方で、直接埋め立てごみ量は、30%の増加となっている。これは、市内で発生した火災によるものであるとの説明を受けた。

なお、市民による直接搬入量が増加しており、日曜日や連休中には、相当な台数が来所していることから、場内のプラットホームや計量棟前道路で事故がないようガードマンなどを配置して対応しているとの説明があった。

#### (2) 焼却施設の運転状況

##### ① ピット受入量

ピット受入総量は 3.2%減となっていることなどの説明を受けた。

##### ② 可燃ごみ処理

可燃ごみの処理量については、前年比で 2%減となっていることなどの説明を受けた。

##### ③ 資源化物量、最終処分量

資源化物総量については、前年比でおよそ 0.5%増、最終処分量はおよそ 6.5%減となっていることなどの説明を受けた。

#### (3) 破碎施設の運転状況

##### ① 不燃・粗大ごみ処理

処理量は、前年比で 7.4%の減少となったとの説明を受けた。それに伴い、稼働日数が減少したが、1 日当たりの処理量は 16t/d 前後と大きな変化はないとのことであった。

##### ② 資源化物量、焼却・埋立量

資源化物量は、前年比で 10.9%減となっているが、不燃・粗大ごみとして搬入されたごみのおよそ 72%程度は破碎処理後、可燃ごみピットに送られ焼却処理されているとの説明を受けた。

#### (4) 新最終処分場（現在、運用中の処分場）

##### ① 埋立処分量

前年度に比べて容積ベースで 27.1%増加しているが、これは覆土量が増加したことによるものであり、直接搬入一般ごみは、20.4%増加しているとのことであった。

##### ② 浸出水原水、放流水の水質

要求水準書にもとづいて水質測定を実施していることについて説明があった。浸出水は処理施設で環境基準を達成するように処理された後、放流されている。汚染度を示す BOD（生物学的酸素要求量）、SS（浮遊物質）、Ca<sup>++</sup>（カルシウム）などの、処理後の放流水の水質については、すべて基準値内であることの説明を受けた。

#### （５） 旧最終処分場

浸出水は、適正に処理され、放流水の水質は、すべて基準値内であることの説明があった。

以上のように搬入される可燃ごみ、不燃・粗大ごみの搬入、焼却処理、資源化物の回収状況、最終処分（埋立）量、ならびに浸出水の処理については、問題がないことを確認した。

なお、運転日報、データなどについては適正に記入され、保管されていることを原本で確認した。

#### ２． 不具合の発生

26年度において発生した一件の事案について説明があった。

これは1系の熱分解ドラム内の圧力が上昇したことにより運転を停止したものである。熱分解ドラムの出口側の加熱管において、ワイヤーロープが起点となって針金などの金属類がさらに巻きついて熱分解ドラム出口を閉塞したために、内部の圧力が上昇したものである。監視カメラなどで目視できる場所ではないが、中央監視室のデータが異常値を示していることを担当者が発見したことにより、重大事故に至る前に停止した。しかし、補修にあたっては、ドラム内部は、高温であることから、冷却に時間がかかり5日間の運転停止となった。人身、設備の破損など重大な事故にはつながらなかったとはいえ、常に点検を行っている箇所であったにも関わらず事前に発見することができなかつたのかということについて委員から意見があった。それに対して2ヶ月前に定期点検を行ったが、その際には、異常がなかったこと、ドラムに投入される際、異物は除去するようになっているが、それをすり抜けて異物が混入した場合にはこのような事故が発生する可能性は、あるとのことであった。特にオブザーバーからは、このような事案は残念ながら完全には避けられず、市民の分別の徹底などが重要であるとの指摘もあった。

#### ３． 環境保全について

環境保全業務については、測定、分析すべき項目、頻度などは要求水準書に記載されている要件について、定期分析計画、分析結果を示しながらすべて問題なく事業を実施していることの説明があった。

新最終処分場からの放流水の BOD が基準値内とはいえ高い値を示していることについては、融雪期による一時的現象であるとの説明を受けた。

昨年度までの委員会でも説明を受けたが、本施設においては、国の基準を遵守することはもとより、それより厳しい基準値を定めた江別市（役所）独自に環境基準値を設定しているものもあるが、すべての項目において基準値をクリアーしていることの説明があった。

ダイオキシン類測定結果では、大気、土壌、水質、環境クリーンセンターからの排ガスの測定結果はいずれも基準値を大きく下回っており問題はないことを確認した。

なかでも、場外の一部の土壌のダイオキシン濃度が昨年と比べて、上昇しているが国の定めた基準を大幅に下回るものであり、問題がないことを確認した。

作業環境においては、粉じんなどは、問題がないが依然として破碎施設の選別室などの騒音レベルが

高い。毎回確認しているように抜本的な改善は難しいと思われるが、作業者に対しては、耳栓などを使用するよう指導しているところである旨の説明があった。

なお、今年度も労災事故、火災発生などの重大な事故は発生していないとの説明を受けた。

#### 4. 事業経営について

収支決算など経営にかかわることについては、取締役会、株主総会が責任をもつべきことであり本委員会では、江別市との契約を交わすことのできる事業主体として適当であるかという視点から評価を行うこととしている。

本年は6月26日に株主総会が行われ、事業報告ならびに第8期決算が承認されている旨の説明があった。それによれば、当期の純利益は、前期に比べて4,176千円減となっている。しかし、売上原価や管理経費の節減により収益を確保し、当期の純利益は3,824千円となっていることの説明を受けた。

例年通り、株主への配当等は、江別市との包括協定が満了した時点まで行われないと説明があった。

さらに貸借対照表による資産などの説明、支出状況、各種保険の加入状況などについて説明を受けた。これらについては、昨年度と変更はなく特段の問題はみられない。

なお、費用のうち工事請負費等、江別市内の業者に支払われた分(市内調達率)は、工事請負費90.5%をはじめ、全体で20.1%となっている旨の説明があったが、委員より可能な限り市内調達率を上げるよう今後とも引き続いて努力するようとの指摘があった。これに対して、特殊業務や資材の調達、大量の灯油の発注もあり難しい面もあるが努力していきたいとの回答があった。

#### 5. 環境整備および地域貢献について

地域との連携を強化するとともに、地域貢献のための事業についても積極的に取り組んでいる旨の説明を受けた。周辺環境の整備のために、周辺の清掃活動や緑化のための施設周辺の植林にも積極的に参加している旨の説明を受けた。江別市の「子育て支援事業」にも協賛、寄付を行っている。また、平成26年10月11日(土)には、親子を対象にした「環境フェア★イン八幡」を開催し、31組90名の参加により、施設見学、工作、昼食交流会などのイベントを通じたごみ問題への啓発などにも取り組んでいることの説明を受けた。また、社員による施設周辺の環境美化ウォーク(ごみ拾い)などの活動も報告された。

26年度の環境クリーンセンターの見学は、市内の小中学生をはじめ1,275名であった旨の説明があった。

#### 6. その他

以上のとおり、㈱エコクリーン江別より、事業内容について説明を受け、適宜、質疑応答を行った。

続いて、事業内容以外のことについても総括的な質問や意見を求めたが、特段の意見はなかった。

最後に三井造船株式会社、クボタ環境サービス株式会社より評価委員会に陪席いただいたオブザーバーから総括的な意見をいただいた。それによれば本設備は、今のところ運転上の問題はないが、運用開始後、年数が経過しているので、引き続き、点検・整備に万全の注意を払えば、これまでと同様、問題のない運転が可能であるとの説明があった。

続いて上妻代表取締役以下の会社関係者およびオブザーバー、傍聴者の退席をもとめ、以上のような説明をもとに委員が総合的な視点に基づいて意見交換を行った。

## II. 総括

以上のように環境クリーンセンター等運営事業評価委員会では、平成 26 年度事業の評価のため、平成 27 年 7 月 16 日に評価委員会を開催し、株式会社エコクリーン江別より事業内容の説明を受け、それに対する質疑応答を行った。

委員に対しては、事前に関係資料が送付されていたが、委員会の席において上妻政敏代表取締役ならびに担当社員より事業内容について詳細な説明があった。委員会にオブザーバーとして同席いただいた三井造船株式会社ならびにクボタ環境サービス株式会社の担当者からも適宜、技術的な内容について補足の説明を受けた。また、本施設が稼動開始後、11 年を経過しているなかでの課題等や設備の現状についてオブザーバーからも意見を述べていただいた。

評価事項の説明および質疑応答を終えた後、委員全員による評価を行い、さらに施設内を視察し、設備の状況を確認した結果、全員一致により㈱エコクリーン江別の平成 26 年度事業については、特段の問題はないと評価するとの結論に至った。

以上